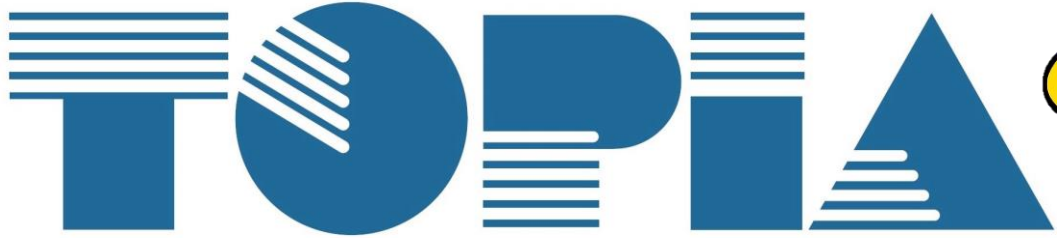


とくしま国際戦略センター



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION



2021.01

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

謹 賀 新 年

年頭のご挨拶



公益財団法人徳島県国際交流協会
理事長 黒石 康夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新しい年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、世界中の人々にとって、かつてない試練の年でした。今も、世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大している中で、人の移動が大きく制限されており、円滑な国際交流の推進が難しい状況にあります。

徳島県国際交流協会においても、外国人旅行者をはじめ、相談に訪れる外国人の数は、以前と比べて極端に減少しています。

毎年実施してきた「あらそわ連」による阿波踊りへの参加も、昨年は、徳島市の阿波踊り自体が中止となり、貴重な国際交流、多文化理解の情報発信の機会が失われてしまいました。しかし、外国人による日本語弁論大会や防災訓練、国際理解支援フォーラムなどの取り組みは、関係者だけに限っての参加やリモート開催など、オンラインとリアルを組み合わせることで、多文化共生社会に向けた歩みを、懸命に進めているところです。

ご承知のように、2021年、新型コロナウイルスを克服した後は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。徳島にもドイツやカンボジア、ネパール、ジョージアの選手団が事前キャンプに訪れます。2022年には、徳島も開催地となって、ワールドマスターズゲームズ2021関西が実施され、世界各国からスポーツを楽しむ人々が徳島を訪れます。そして2025年には、大阪万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催され、世界中から沢山の人やモノや英知が集まり、様々な地球規模での課題の解決に挑みます。これらの機会は、徳島に大きなインパクトをもたらすものと期待しています。

また、徳島に住む外国人の数は、昨年6月末で6,658人となり、年々増加しています。日本政府が外国人労働者の大幅な受け入れを進めていることから、今後ますます増加します。これに伴って、家族で在住する外国人が増え、教育や医療、労働問題など、今まで以上に様々な課題が増えてきます。国際交流の内容も、これまで

とは違い、国と国との間の行き来よりも、外国人にとって暮らしやすい生活環境づくりに重点が移ってきています。特に、子育て・教育の問題は、世代を超えて大きな影響を及ぼす重要課題であり、人的、財政的な支援の充実が喫緊の課題となっています。

今、国際社会は、自国中心主義や内向き志向により、分断が危惧されています。さらにコロナウイルス禍で、世界では貧困や食糧不足が進み、紛争が続き、命を落とす人の増加が危惧されます。互いの立場を超えて、理解を深め、尊重し助け合う国際交流は、これらの人類最大の課題の解決のために、強力に進めていかなければなりません。一日も早くコロナウイルスが終息し、人が行き来し、ふれあうことのできる国

際交流が再開できることを祈っています。

新しい年の徳島は、スポーツや科学、文化を通じて、世界からの人やモノが行き交う国際交流・連携の舞台となります。こうした機会を捉え、交流・連携の流れをより大きなものとし、徳島が外国人の暮らしやすい地域となることはもちろんのこと、「平和の実現や貧困の解消など」地球規模での課題の解決に、一歩でも近づきたいと思います。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年でありますことを御祈念申し上げますとともに、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

大規模災害時外国人支援訓練を実施しました！

地域外国人コーディネーター
滝 壽郎

（公財）徳島県国際交流協会では、徳島県ダイバーシティ推進課との共催で、2020年11月11日（水）、徳島県国際交流協会がある徳島駅クレメントプラザ6階「とくしま国際戦略センター」を拠点に、web会議システム（Zoom）により、南海トラフ巨大地震の発生を想定した、外国人支援訓練を実施しました。訓練には、外国人支援機関、通訳ボランティア、在住外国人等、70人が参加しました。

最初に、（公財）仙台観光国際協会国際化事業部の須藤伸子氏（国際化推進課長）に、ご自身が東日本大震災の発生直後より外国人支援に携わった様子を交えながら、お話しいただきました。その一部を紹介します。

①災害時に外国人が困ることは、災害に対する知識、経験がなく、ストック情報が足りないことや、日本語の情報が理解できないため、フロー情報が入手できないこと、そして、外国で被災する不安・ストレス。

②そこで、大災害が発生した時に、日本語ができずに行政機関等が発信する情報を得られないなど、外国での被災で不安を抱えている外国人を支援するために、多言語での情報提供や相談対応を通して、「安心」を届けることが大事であること。

③災害発生から生活再建までで、支援内容が変化していくこと。

初動対応期（災害発生～避難）

- ・家の中がキケン、初動がわからない
- ・何が起きているのかわからない、避難場所がわからない
- 防災知識、災害情報の提供、避難誘導



避難生活期（避難所開設～閉鎖まで）

- ・災害時の支援、情報入手方法がわからない
- ・避難所での過ごし方がわからない
→ 支援情報の提供、避難生活の支援

生活再建期（避難所閉鎖～）

- ・災害時特有の専門的な問題
- ・生活再建に向かう各種相談対応
→ 生活再建情報の提供、手続き支援

須藤氏の講演の様子



- ④提供すべき情報内容が、地震直後、2、3日後、1週間後、2週間後、1か月後と変化し、時間が経過するほど情報が複雑化し、翻訳時間がかかること。

⑤役割と事前準備

【行政の役割】

- ・外国人に関わる部署との連携を密にしておき、協会とつなぐ。
- ・外国人住民のデータを収集、協会に共有。

【協会の役割】

- ・外国人住民や市民団体とのネットワークをつくる。
- ・外国人住民の変化やニーズを常に把握しておく。

【ボランティアの役割】

- ・防災の情報、災害用語などをアップデートしておく。
- ・災害時に活動できるように自分自身の防災対策をしておく。



相談会の訓練の様子



⑥まとめ

多言語での情報提供を手段として、「安心」を届ける。

- ・言葉や心のサポート
 - ・習慣や文化の違いを理解、文化の通訳
 - ・困っている外国人を支援につなげる
 - ・外国人被災者の声を聞く、届ける
- 平常時にできていないことは災害時にもできない。

続いて、実際の訓練に移り、当協会の会議室に「災害時外国人相談センター」を設置し、

- ①災害情報を外国人向けにアレンジして多言語に翻訳し提供する訓練
- ②市町村等からの要請を受けて、通訳ボランティアを派遣する訓練
- ③被災外国人からの相談に対応するための相談会の訓練を行いました。

最後に訓練の振り返りをし、多言語表示シートや連絡網などの事前準備の大切さや、日頃から地域での防災訓練に外国人も参加し地域住民と外国人との顔の見える関係づくりをしておくことや、迅速に相談に対応するための多言語のQ Aづくりなどが課題としてあげられました。

また、日頃から地域の外国人住民とコミュニケーションをとる手段として、「やさしい日本語」（小学校の低学年にもわかるような、簡単な単語を使用し配慮した話し方）を使用することの重要性等についても話がありました。



国際理解支援フォーラム2020

～徳島に住む外国の方と共に 徳島での子育て・教育について考えよう～

長期社会体験研修生
三好 佳代

去る11月15日（日）に徳島県国際交流協会にて、国際理解支援フォーラム2020「徳島での子育て～徳島に住む外国の方と共に考えよう～」を行いました。第1部では、徳島県内在住外国人（ドイツ出身、中国出身、韓国出身）による講演『外国にルーツを持つ子どもたちの子育て・教育』を聞きました。3名の講師から、母国と日本との教育制度の相違、学校での支援、部活動を通して得た人間関係、進路など、体験談に基づく多文化共生への想いを語っていただきました。また、参加者からの質疑応答の時間も設けました。講演の中で語られた「2つの言葉を持ち、2つの文化の中で生きている」子どもの“心のケア”を大切にしたいと強く感じました。

第2部では、『学校について』『多文化共生に向けて』『外国にルーツを持つということ』のテーマに分かれ、参加者と講師がテーブルを囲み意見交流を行いました。参加者の方からは、以下のような感想が出されました。

- ❶ 外国にルーツを持つ子どもが学校に在籍していた場合、どのような支援ができるかを考えるいい機会となった。
- ❷ 母国と日本のバランスに悩む。自分の個性を大切にするという考えが広まって欲しい。
- ❸ 様々な立場の方が多文化共生のためにご尽力されていることや、徳島で暮らしている外国にルーツを持つ人々の生活の様子を知ることができた。今後この経験を生かしていきたい。
- ❹ 外国人の生の声を聞くことができ、大変よいフォーラムだった。
- ❺ 教師として、これからの学校教育の在り方について、改めて考えるいい機会となった。
- ❻ このような国際理解・親善の機会をまた設けていただきたい。国際理解の輪が大きく広がればよいと思う。

フォーラムに参加されたみなさまが、外国にルーツを持つ方々から直接話を聞き、ともに多様性を認め合いながら生活できる学校や社会について考えることができたのではないのでしょうか。当協会はこれからも、みなさまと共に多文化共生社会について考える機会をつくっていききたいと思います。



防災センター・スタディ・ツアー

南海トラフ巨大地震の発生確率は、今後30年以内に70～80%程度と予測され、震度7の強い揺れにより甚大な被害を及ぼすと想定されています。そのため、地震に対する知識を持ち、日頃から備えを整えておくことにより、被害を最小限に食い止める必要があります。

県内在住の外国人の中には、地震を全く経験したことがない方、地震のない国から来日された方もいらっしゃいます。当協会では、そのような方々に地震やその他様々な災害について学び、日々の備えに生かしてもらうことを目的とし令和2年9月27日（日）に防災センター・スタディ・ツアーを開催し、7か国11名の方々が参加して下さいました。

最初に、防災人材育成センターの職員による防災講座を受講し、その次に、防災ガイダンスのコーナーで、徳島県が作成した「津波から命を守る」の映像を見ながら地震から発生をする津波の仕組みや発生時の対処法を学びました。

続いて、阪神・淡路大震災と同規模の地震体験、また、消火、煙、暴風の体験をしました。地震体験で、震度5弱の揺れを体験した参加者の表情には余裕がありましたが、震度7の揺れを体験したときは一瞬にして表情がこわばり、身体が降り飛ばされないように固定されたテーブルにしがみついていた様子でした。

体験終了後に参加者から「もし地震や津波が起こった際に、どのような行動をとればいいのか学ぶことができ、大変勉強になりました」とメールが届きました。

今回のツアーで得た知識を参考にし、いつ起こるかわからない災害に対して備えていただければ幸いです。



とくしま農山漁村【ふるさと】
応援し隊事業



徳島県が実施する「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」のふるさと団体「しでの会」からの依頼で、当協会から参加者23名が「八朔の収穫作業」を応援しました。

美馬市穴吹町口山仕出原の「しでの家」に集合し、「しでの会」の方から八朔収穫の注意点等の説明後、5班に分かれて、作業に取りかかりました。初めて高枝切鋏を使う参加者が多く、大きな八朔が斜面を転げ落ちていましたが、次第に使い方のコツを掴み、上手に高い場所の八朔を収穫できるようになりました。

4時間程度の収穫でしたが、時間はあっという間にすぎ、参加者たちからは、「とても有意義な週末を過ごすことができました。」「このようなイベントにまた参加したいです！」などの感想をいただきました。



～県内国際交流団体活動紹介～



地域と共に

阿波国際交流協会
阿波日本語支援教室
事務局長 藤本 功男

「阿波市に日本語教室がない。」

これは、ある日の新聞の記事でした。「阿波市には、外国人が沢山いるのになあ。」と感じた私たちは、実態調査に乗り出しました。

事実、阿波市には県下2番目（2019年末、515人）の外国人在住者がいます。農家や縫製工場などの事業所を回ってみると、「日本語を学びたい」、「学ばせたい」という声が多くありました。

そんなとき、徳島県国際交流協会から阿波市で『地域日本語支援ボランティア養成講座』の開催依頼がありました。2019年度、県下から28名の受講生が参加しました。そのメンバーを中心に、2020年2月、14名のボランティアスタッフが集まり、「阿波日本語支援教室」を開こうと合意しました。

教室開催の予定は9月と決めました。私たちは、これに向けて何度も話し合いを持ち、模擬授業などを行うことによって、支援者としての力量と自覚を高めていきました。また、事業所を回り、事業主に教室開催に向けて協力をお願いしました。さらに、直接、技能実習生に会って、声をかけ、参加に向けての働きかけを何度もしました。

2020年9月6日（日）、いよいよ教室開きの日です。約束はしていたものの、実際に来てくれるものかと、とても心配しました。蓋を開けてみると、約束通り15名（後に1名加わる）の受講生の皆さんが、集まってくれました。最初の信頼の絆が結ばれた瞬間です。

現在（11月末）、教室は順調に進んでいます。16名（インドネシア9名・ベトナム4名・中国3名）の受講生とボランティアスタッフ14名が膝をつき合わせて、日本語学習に熱を込めて取り組んでいます。日本語能力試験や農業技能実習評価試験を受ける受講生もいて、学びのボルテージは高まっています。

今後は、地域交流、伝統行事体験活動、フィールドワーク等を行いながら、地域の人たちとお互いの文化や風習を理解し合い、よりよい関係を築いていきたいと思っています。そして、多文化共生の輪を広げ、活力と人間味あふれる地域づくりに貢献できるよう努力を重ねてまいります。



教室開講日の様子



日本語教室の様子



JICA徳島デスクのページ

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は、日本のODA（政府開発援助）の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「信頼で世界をつなぐ(Leading the world with trust)」というビジョンを掲げ、多様な援助手法を組み合わせ、最適な解決策を提供することで、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

～JICA四国HP・Facebookからの寄稿ご紹介～

◆JICA四国Facebookページ

4月にネパールからコロナ感染拡大の影響を受け一時帰国したシニア海外ボランティア澤口光資郎さん（派遣国：ネパール／職種：交通安全）は、国内待機中の活動として、鳴門市の小中学校で交通安全教室・薬物乱用防止教室などを行っています。

JICA海外協力隊の活動も紹介し、生徒たちが国際協力への理解・関心を広げ、世界に目を向けてくれることを願っています。



◆JICA四国HP「人」明日ストーリー

国内外で活躍中の四国にゆかりのあるJICA関係者に焦点を当て、リレー形式でエッセイを公開しています。

「世界と共に生きる」と題し、元青年海外協力隊の野水祥子さん（ガーナ／婦人子供服）の寄稿が掲載されました！海外に関心を持つようになったきっかけ、現在TOPIA職員として多文化共生に取組まれる想いが熱く語られています。



■JICAの支援メニュー紹介：JICAでは、日本の地域で発展してきた技術や経験を開発途上国の発展にも活用し、国際協力を通じて地域の活性化や国際化にも貢献していきます。

◆JICA海外協力隊事業

開発途上国の国づくりに貢献できる人材を現地へ派遣、帰国後もグローバル人材としての活躍が期待されています。世界規模での新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、2021年2月よりオンラインキャラバンを実施し、今後の募集は以下のようになります。

○2021年春募集：2021年5月～6月（通常2～3月） ○2020年度短期第3回募集：中止（通常3月頃）
※実施の詳細につきましては、今後JICA海外協力隊ホームページにてお知らせいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

◆草の根技術協力事業

技術協力を通じて途上国の方々の生活改善を支援しています。

【事業提案の応募は、以下の3コース】

- 草の根協力支援型（3年以内、1,000万円以内）
- 草の根パートナー型（5年以内、1億円以内）
- 地域活性化特別枠（3年以内、6,000万円以内）

◆開発教育支援事業

地域や学校の皆さんと世界を学びます。

教員向けJICA地球ひろば「先生のお役立ちサイト」
学習指導案・写真・映像・パンフレットデータ・教材／教師海外研修／JICA海外協力隊への現職参加
→検索「JICAお役立ち」

○2月13日（土）国際理解教育セミナー

※詳細は、JICA四国HPをご覧ください。

◆研修員受入事業

開発途上国からの研修員が四国の知識、経験を学んでいます。大学・地方自治体・民間団体などの協力を得て、四国の特性を活かした四国ならではの研修を実施しています。

◆中小企業・SDGsビジネス支援事業

四国の技術、世界へ！四国の民間企業と途上国を繋ぎます。

- 基礎調査（850万円上限）
- 案件化調査（3,000万円、機材輸送が必要な場合は5,000万円上限）
- 普及・実証・ビジネス化事業（1億円、大規模／高度な製品等を実証する場合は1.5億円を上限）
- 「JICA海外協力隊（民間連携）」を通じたグローバル人材の育成

JICA徳島デスクでは、いつでも皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

デスク：徳島県国際交流協会（TOPIA）内、徳島県国際協力推進員：長田

TEL：088-656-3303 Email：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

JICA四国HP：<https://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>

※（注）派遣国の政治・治安情勢や感染症を含む自然災害の状況により、事業実施を見合わせる場合があります。

「とくしま外国人支援ボランティア会員」

＊募 集 中＊

徳島には約80か国、約6,600人の外国人の方が住んでおり、2019年4月からの「外国人材の受け入れ拡大」などにより、今後ますますその数は増えていくことが予想されます。彼らが、この徳島で国籍などに関係なく生き生きと生活することができるよう、ボランティアになって支援していただきながら一緒に国際理解や多文化共生を推進していきませんか？

詳しくはとくしま国際戦略センターホームページの「ボランティア募集」をご覧ください。

URL <https://volunteer.topia.ne.jp/recruit/page01.html>

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受けることができ、賛助団体は会議室の予約を3カ月前から申し込むことができます。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい 人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。リモート講義についても御相談ください。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

徳島県外国人総合相談窓口



徳島県で生活する外国人のみなさんが、暮らしやすい地域社会を目指し、外国人総合相談窓口を開設しています。当協会では英語、中国語、そしてベトナム語のほか、たくさんの言語で対応ができますので、仕事、医療、子育てなど生活でお困りのことがございましたら、当協会に来所いただくか、お電話いただければ対応させていただきます。

開 所 時 間：10：00～18：00（年末年始を除く）

場 所：とくしま国際戦略センター

（公益財団法人徳島県国際交流協会）

多言語対応：

（1）多言語（英語・中国語・ベトナム語）相談員の配置

（2）電話通訳システムの導入

（通訳事業者、行政機関も交えて4者間で相談できる）

【対応言語】18言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤インドネシア語 ⑥タイ語 ⑦マレー語
- ⑧タガログ語 ⑨ネパール語 ⑩ミャンマー語
- ⑪クメール語 ⑫モンゴル語 ⑬ポルトガル語
- ⑭スペイン語 ⑮フランス語 ⑯ドイツ語
- ⑰イタリア語 ⑱ロシア語

（3）映像通訳システムの導入

（相談者・相談員と通訳者との対面相談に対応）

【対応言語】8言語

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④ベトナム語
- ⑤タイ語 ⑥ポルトガル語 ⑦スペイン語
- ⑧ロシア語

（4）対面式通訳機（ポケットーク）の導入（74か国語）

（5）多言語翻訳アプリ（ボイストラ）の導入

相談専用TEL：088-656-3312、088-656-3313

相 談 料：無料

（ただし、電話代は自己負担となります）

問い合わせ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831

徳島市寺島本町西1-61

クレメントプラザ6F

開所時間：月曜日～日曜日 10：00～18：00

TEL：088-656-3303 FAX：088-652-0616

URL：<http://www.topia.ne.jp>